
遥かなる旅路～小説ドラゴンクエスト?～

莉紗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遙かなる旅路〜小説ドラゴンクエスト〜

【Nコード】

N7920Z

【作者名】

莉紗

【あらすじ】

現在ではないとき、此处ではない場所で。

二羽の鷹が切羽詰まった様子でたった今目にしたことを風に、風が木々に、そして木々が動物達に伝えた。

大きくてそれはそれは立派なお城が、たった一日にして滅んでしまったと。

その日から主人公リユナと、仲間たちの冒険が始まる。

遙かなる旅路へと。

今ブログから引っ越し中です。もうすぐ終わるか…重複投稿(?)しています。ご了承ください。

序章？

現在ではないとき、此処ではない場所で。

二羽の鷹が切羽詰まった様子でたった今日にしたことを風に、風が木々に、

そして木々が動物達に伝えた。

大きくてそれはそれは立派なお城が、たった一日にして滅んでしまったと。

そしてその城には、神鳥よりもたらされし秘宝「神鳥の杖」が封印されていて、

その杖がなくなっていたのだと。

神鳥の杖は人間離れた力を発揮させる。

神と崇められる鳥から与えられたのだから。

人々は畏れ慄いた。杖には指一本触れなかった。

だから今まで、この世は平和だったのかもしれない。

邪な人間に杖が渡ったとすれば

動物たちは互いに身を寄せ合い、これからの行く末を案じた。

小さな野ネズミが草むらを走り抜ける。虫を追いつけているようだ。長い尻尾がわさわさと揺れる。

よそ見をしていたのかトン、とぶつかったのは長い橙色のロープを着た人物・・・人？

怪訝そうな顔をして振り返ったのは緑色の怪物じみた化け物だった。キーンっ、と歯をむき出すと、野ネズミは驚いて飛び上がる。

「ハハハッ、トロデ王に驚いてるよ可哀想に。そらトーポ、おいで。

赤色のバンダナを頭に巻いた青年が言う。

黄、青の鮮やかな色合いの服。澄んでいて、なお意志の強そうな黒い瞳。

背中にしまわれているのは、長めの片手剣だ。

トーポと呼ばれた野ネズミは一目散に主人の元へ駆け寄った。差し出された手を駆け登り、彼の左ポケットに潜り込んだ。

「そりゃあ、トロデのおっさんを見て驚かない人間はそうそういないでがんすよ。」

その様子を遠目から見て笑いながら言う一人の男。

棘の生えた実を半分に割ったような帽子を頭に被り、背には斧を背負っている。

フサフサとした毛皮のベストや擦り切れたブーツからは、旅慣れた者の香りがする。

身体中に走る傷痕…右頬の十字傷等…、目つきの悪さ、まるで山賊だ。

「そんなことをいうでないヤンガスっ。ワシとて望んでこんな姿になっっている訳ではないのだ。ワシが人間の頃はもっとハンサムでな…何かおかしいか、リユナ。」

「いや、な、何もないですよ…プッ。」

「そうか。リユナの兄貴はおっさんが人間の時の顔を知っているでがんすね。」

「どうだったでげすか？」

「いや、大して変わってないよ。」

「やっぱりね、と笑うヤンガス。トロデは笑う二人をポカリと殴った。」

序章？

「そう言えば、姫は？ 姫や、姫やどこじゃ。」

「姫って…あの馬姫様のことですかい？ そう言えば姿が見えないでげすな。」

長旅において必ず必要な物の中に「馬車」が有る。

疲れた時は中で休むことは勿論、荷物や武器を運んだり、目的によつては

人をかくまうことも可能だ。

リユナたちのパーティーも当然、馬車を持っている。

小ぢんまりとしているが、どことなく気品が漂っているのは気のせいだろうか。

その馬車を曳く馬、その馬が消えてしまったのだ。

ちなみにトロデは、この馬をまさに「目に入れても痛くない」状態。溺愛しているのだった。

三人…は辺りを見回す。

ここは鬱蒼と繁った森の中。迷い込む隙は沢山有る。

トロデが必死に呼ぶが、馬は一向に姿を見せない。

と、茂みがゴソッと動いた。

「姫や、そこにいるのか？」

トロデは茂みに近づいた。その時リユナ首筋にピリピリと緊張を感じた。

年の感覚で分かる、殺気だ。

反射でトロデを突き飛ばした。

「ヤンガスッ。」

「おうよ。」

軽々と飛んできたトロデをヤンガスがキャッチし、リユナは地に倒れる。

同時に茂みからスライムが何匹か飛び出した。

サツと飛び起き背から剣を抜く。ギラリと鈍く光る刃、長年使い古している僕の愛剣。

ふるふると体を震わせ、トロデに飛び掛かろうとした二匹を一刀で切り捨て、

返す刀で向かってきた一匹を薙ぐ。両足を踏ん張り、剣と共にぐるりと一周。

そんなリユナの背後に忍び寄った何匹か。まずい、気付いて体を捻ってももう遅い。

まあかすり傷の一つや二つ増えるだけさ…

「とうつ。」

割り込んできたのはヤンガス。左脇にはヤンガスに抱えられたまま、頭を手で覆い体を縮こまらせ震えるトロデ。

そんなことはつゆしらず、右手で斧を振るう。

ぐわぁんと大気が震え、衝撃波だけでスライムは潰れていった。

毎日手入れを欠かさない鉄製の斧はヤンガスが使うと化け物じみた威力を発揮する。

気付けばスライムは居なくなっていた。グサツと二人が同時に武器を地に差した。

「あー、大分腕が鈍っちまったでがんす…おっさん？大丈夫でげすか？」

ヤンガスが見下ろした先には憎らしげに睨みを効かせるトロデがいた。

「助けて貰ったことには礼を言う。しかし…せめてワシを置いてから戦いに加われっ！」

死ぬかと思ったぞっ。」

「いやぁおっさん小さすぎて。」

こりや喧嘩になるぞ…、勢いだけの口喧嘩にリユナは無意識に微笑んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7920z/>

遥かなる旅路～小説ドラゴンクエスト?～

2011年12月25日14時59分発行